

中 1 不登校への対応について

～小・中学校の連携とチーム支援を軸とした取り組み～

不登校は、中学校に入学した1年間で、小学校6年次の約3倍に増加します。(図1) それは、人間関係や学習内容や方法など、入学後の新たな環境にうまく適応できないということが、要因のひとつになっています。また、この要因を追跡調査した国立教育政策研究所の「中1不登校調査」では、中学1年生の不登校生徒の68パーセントが小学校4年生からの3年間のうちに、長期にわたる欠席や保健室への登校など、不登校につながるような兆候を示していたという報告もあります。

こうした状況を解消するには、中学校の取り組みだけでは難しい面があり、様々な連携が不可欠になります。児童の状況を把握し、早期対応を図るための小・中学校の連携、個々の児童生徒を支援するための校内連携、教育委員会や関係機関との校外連携など、小学校、中学校、関係機関が一体となった取り組みが必要です。

前年度小6と中1の不登校児童生徒数の比較(図1)

